

製品名: SGK1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17818**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000 |
| 分子量 | 57kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | SGK1 |
| 別名 | SGK1; SGK; Serine/threonine-protein kinase Sgk1; Serum/glucocorticoid-regulated kinase 1 |
| 遺伝子 ID | 6446.0 |
| SwissProt ID | O00141 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト SGK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 381-430 |

背景

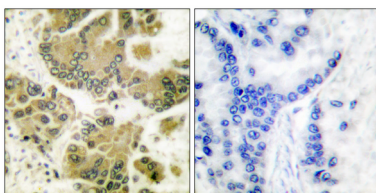
この遺伝子は、細胞ストレス応答において重要な役割を果たすセリン/スレオニンプロテインキナーゼをコードしています。このキナーゼは特定のカルウム、ナトリウム、および塩素イオンチャネルを活性化するため、細胞生存、神経細胞の興奮性、および腎臓か

らのナトリウム排泄といったプロセスの調節に関与していることが示唆されています。この遺伝子の高発現は、高血圧や糖尿病性腎症といった病態の一因となる可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが知られています。[RefSeq 提供、2009年1月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素調節: キナーゼドメイン (Thr-256) と C 末端調節領域 (Ser-422) の 2 つの特定の部位がリン酸化されて初めて、完全な活性化が起こります。、機能: 細胞ストレス応答において重要な役割を果たすプロテインキナーゼ。特定のカリウム、ナトリウム、および塩素イオンチャンネルを活性化し、細胞生存、神経興奮性、腎臓からのナトリウム排泄といったプロセスの調節に関与していることを示唆しています。持続的な高レベルおよび活性は、高血圧や糖尿病性腎症などの病態の一因となる可能性があります。細胞生存シグナルを媒介し、プロアポトーシス性 FOXO3A をリン酸化して負に制御します。NEDD4L をリン酸化することで NEDD4L は不活性化され、その後、ENaC、Kv1.3、EAAT1 などの様々なチャンネルやトランスポーターが活性化されます。、誘導: 血清および / またはグルココルチコイドによって。培養細胞においては、過剰な細胞外グルコースおよび TGF-β によって。、PTM: リン酸化によって制御されます。ホスホイノシチド 3 キナーゼ (PI3 キナーゼ) 経路は Ser-422 のリン酸化を促進し、PDPK1 による Thr-256 のリン酸化を増加させます。、PTM: NEDD4L によってユビキチン化され、プロテアソーム分解を促進します。SYVN1 によって小胞体でユビキチン化され、プロテアソーム分解を迅速に促進し、休止細胞における高いターンオーバー率を維持します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: 1 つの AGC キナーゼ C 末端ドメインを含みます。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。細胞内局在: 核内、リン酸化により生成されます。、サブユニット: NEDD4 および NEDD4L と相互作用します。、組織特異性: ほとんどの組織で発現しますが、膵臓に最も多く発現し、次いで胎盤、腎臓、肺の順になります。、

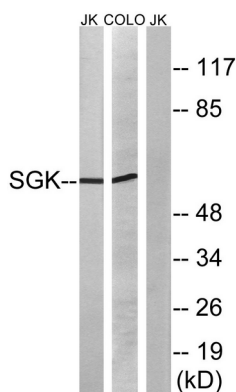
研究分野

アルドステロンによるナトリウム再吸収の調節。

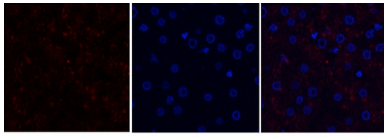
画像データ



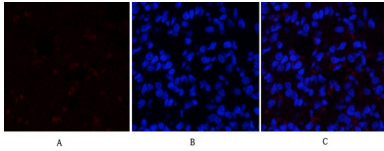
SGK 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



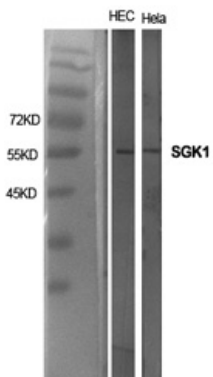
SGK 抗体を用いた Jurkat 細胞および COLO205 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



ヒト肝組織の免疫蛍光染色。1, SGK1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, SGK1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



1: 1000 に希釈した SGK1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析